

連結

連結貸借対照表
(平成30年03月31日 現在)

(単位：円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】	—	【負債の部】	—
固定資産	65,352,876,561	固定負債	41,080,310,227
有形固定資産	59,787,239,989	地方債等	27,084,081,770
事業用資産	26,199,356,126	長期未払金	—
土地	4,459,979,580	退職手当引当金	4,965,749,677
立木竹	13,970,357	損失補償等引当金	—
建物	44,086,502,763	その他	9,030,478,780
建物減価償却累計額	△23,471,616,742	流動負債	4,189,419,189
工作物	5,088,324,079	1年内償還予定地方債等	3,005,092,678
工作物減価償却累計額	△3,992,157,111	未払金	459,077,363
船舶	—	未払費用	30,413,540
船舶減価償却累計額	—	前受金	76,490,156
浮標等	—	前受収益	—
浮標等減価償却累計額	—	賞与等引当金	315,908,660
航空機	—	預り金	174,809,853
航空機減価償却累計額	—	その他	127,626,939
その他	—	負債合計	45,269,729,416
その他減価償却累計額	—	【純資産の部】	—
建設仮勘定	14,353,200	固定資産等形成分	66,209,183,399
インフラ資産	28,547,221,902	余剰分(不足分)	△42,169,601,230
土地	1,484,217,464	他団体出資等分	27,349,542
建物	4,440,929,338		
建物減価償却累計額	△2,671,574,589		
工作物	65,583,446,518		
工作物減価償却累計額	△43,281,863,027		
その他	—		
その他減価償却累計額	—		
建設仮勘定	2,992,066,198		
物品	13,501,147,982		
物品減価償却累計額	△8,460,486,021		
無形固定資産	25,547,013		
ソフトウェア	4,566,181		
その他	20,980,832		
投資その他の資産	5,540,089,559		
投資及び出資金	135,116,234		
有価証券	75,841,234		
出資金	59,275,000		
その他	—		
投資損失引当金	—		
長期延滞債権	372,348,296		
長期貸付金	155,206,981		
基金	4,809,672,477		
減債基金	373,672,820		
その他	4,435,999,657		
その他	124,046,721		
徴収不能引当金	△56,301,150		
流動資産	3,983,784,566		
現金預金	1,538,724,498		
未収金	1,065,913,107		
短期貸付金	22,989,754		
基金	833,317,084		
財政調整基金	833,317,084		
減債基金	—		
棚卸資産	203,787,107		
その他	349,791,201		
徴収不能引当金	△30,738,185		
繰延資産	—	純資産合計	24,066,931,711
資産合計	69,336,661,127	負債・純資産合計	69,336,661,127

連結

連結行政コスト計算書

自 平成29年04月01日

至 平成30年03月31日

(単位：円)

科目	金額
経常費用	30,824,839,560
業務費用	17,289,120,826
人件費	5,680,509,044
職員給与費	4,164,563,485
賞与等引当金繰入額	315,908,660
退職手当引当金繰入額	1,005,347
その他	1,199,031,552
物件費等	10,828,894,103
物件費	7,026,273,083
維持補修費	817,033,928
減価償却費	2,938,181,732
その他	47,405,360
その他の業務費用	779,717,679
支払利息	292,483,497
徴収不能引当金繰入額	65,819,826
その他	421,414,356
移転費用	13,535,718,734
補助金等	11,401,134,578
社会保障給付	2,130,114,148
他会計への繰出金	—
その他	4,470,008
経常収益	5,303,023,793
使用料及び手数料	4,528,139,577
その他	774,884,216
純経常行政コスト	25,521,815,767
臨時損失	47,994,194
災害復旧事業費	36,482,400
資産除売却損	2,195,861
投資損失引当金繰入額	—
損失補償等引当金繰入額	—
その他	9,315,933
臨時利益	170,359,216
資産売却益	—
その他	170,359,216
純行政コスト	25,399,450,745

連結

連結純資産変動計算書

自 平成29年04月01日

至 平成30年03月31日

(単位：円)

科目	合計	固定資産等形成分		
		固定資産等形成分	余剰分（不足分）	他団体出資等分
前年度末純資産残高	22,426,818,980	65,657,218,695	△43,253,971,145	23,571,430
純行政コスト（△）	△25,399,450,745	—	△25,403,228,856	3,778,111
財源	27,029,702,507	—	27,029,702,507	—
税収等	19,991,335,414	—	19,991,335,414	—
国県等補助金	7,038,367,093	—	7,038,367,093	—
本年度差額	1,630,251,762	—	1,626,473,651	3,778,111
固定資産等の変動（内部変動）	—	省略		
有形固定資産等の増加	—			
有形固定資産等の減少	—			
貸付金・基金等の増加	—			
貸付金・基金等の減少	—			
資産評価差額	△1,119,690			
無償所管換等	17,892,751			
他団体出資等分の増加	—			
他団体出資等分の減少	—			
比例連結割合変更に伴う差額	△7,829,276			
その他	917,184			
本年度純資産変動額	1,640,112,731	551,964,704	1,084,369,915	3,778,112
本年度末純資産残高	24,066,931,711	66,209,183,399	△42,169,601,230	27,349,542

注 記

1 重要な会計方針

(1) 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

① 有形固定資産……………取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

ア 昭和 59 年度以前に取得したもの……………再調達原価

ただし、道路、河川及び水路の敷地は備忘価額 1 円としています。

イ 昭和 60 年度以後に取得したもの

取得原価が判明しているもの……………取得原価

取得原価が不明なもの……………再調達原価

ただし、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額 1 円としています。

② 無形固定資産……………原則として取得原価

ただし、取得原価が不明なものは、再調達原価としています。

なお、一部の連結対象会計及び団体（地方公営企業会計、地方三公社、株式会社）においては、原則、取得原価としています。

(2) 有価証券及び出資金の評価基準及び評価方法

① 満期保有目的以外の有価証券

ア 市場価格のあるもの……………会計年度末における市場価格

(売却原価は移動平均法により算定)

イ 市場価格のないもの……………取得原価

② 出資金

市場価格のないもの……………出資金額

(3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

① 商品、貯蔵品……………先入先出法による原価法 ただし、一部の連結対象団体等においては、最終仕入原価法による原価法

② 販売用土地……………地方公共団体の財政の健全化に関する法律施行規則第 4 条第 2 項各号に掲げ
る方法 ただし、一部の連結対象団体等においては、個別法による原価法又は低価法

(4) 有形固定資産等の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物	10年～50年
工作物	7年～60年
物品	2年～50年

② 無形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法
（ソフトウェアについては、庁内における見込利用期間（5年）に基づく定額法によっています。）

③ リース資産

ア 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産（リース期間が1年以内のリース取引及びリース契約1件あたりのリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

……………自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

イ 所有権移転外ファイナンス・リース取引

……………リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

(5) 引当金の計上基準及び算定方法

① 投資損失引当金

市場価格のない投資及び出資金のうち、連結対象団体に対するものについて、実質価額が著しく低下した場合における実質価額と取得価額との差額を計上しています。

② 徴収不能引当金

未収金については、過去の平均不納欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。

長期延滞債権については、過去の平均不納欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。

長期貸付金および短期貸付金については、過去の平均不納欠損率により（又は個別に回収可能性を検討し）、徴収不能見込額を計上しています。

③ 退職手当引当金

退職手当債務から組合への加入時以降の負担金の累計額から既に職員に対して退職手当として支給された額の総額を控除した額に、組合における積立金額の運用益のうち根室市へ按分される額を加算した額を控除した額を計上しています。

④ 賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

(6) リース取引の処理方法

① ファイナンス・リース取引

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

② オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

(7) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

ただし、一部の連結対象団体等については、税抜方式によっています。

2 重要な会計方針の変更等

(1) 会計方針の変更

該当する事項はありません。

(2) 表示方法の変更

該当する事項はありません。

(3) 全体資金収支計算書における資金の範囲の変更

該当する事項はありません。

3 重要な後発事象

(1) 主要な業務の改廃

該当する事項はありません。

(2) 組織・機構の大幅な変更

該当する事項はありません。

(3) 地方財政制度の大幅な改正

該当する事項はありません。

(4) 重大な災害等の発生

該当する事項はありません。

4 偶発債務

(1) 保証債務及び損失補償債務負担の状況

該当する事項はありません。

(2) 係争中の訴訟等

該当する事項はありません。

5 追加情報

(1) 連結対象団体等

団体（会計）名	区分	連結の方法	比例連結割合
交通傷害共済事業特別会計	地方公営事業会計 その他	全部連結	—
国民健康保険特別会計事業勘定	地方公営事業会計 その他	全部連結	—
介護保険特別会計事業勘定	地方公営事業会計 その他	全部連結	—
後期高齢者医療特別会計	地方公営事業会計 その他	全部連結	—
港湾整備事業会計	地方公営事業会計 公営企業会計	全部連結	—
水道事業会計	地方公営事業会計 公営企業会計	全部連結	—
下水道事業会計	地方公営事業会計 公営企業会計	全部連結	—
病院事業会計	地方公営事業会計 公営企業会計	全部連結	—
北海道後期高齢者医療広域連合	一部事務組合・広域連合	比例連結	0.51%
北海道市町村退職手当組合	一部事務組合・広域連合	※1	—
北海道市町村備荒資金組合	一部事務組合・広域連合	比例連結	0.45%
北海道市町村総合事務組合	一部事務組合・広域連合	※1	—
根室市土地開発公社	地方三公社	全部連結	—
(株)根室市観光開発公社	第三セクター等	全部連結	—
(株)根室水産コンビナート公社	第三セクター等	全部連結	—

連結の方法は次のとおりです。

- ① 地方公営企業会計は、すべて全部連結の対象としています。
- ② 一部事務組合・広域連合は、各構成団体の経費負担割合等に基づき比例連結の対象としています。
※1 北海道市町村退職手当組合・北海道市町村総合事務組合については、財務書類を入手できなかったため連結対象外としています。
- ③ 第三セクター等は、出資割合等が 50%を超える団体（出資割合等が 50%以下であっても業務運営に実質的に主導的な立場を確保している団体を含みます。）は、全部連結の対象としています。

(2) 出納整理期間

地方自治法第 235 条の 5 に基づき出納整理期間を設けられている会計においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

なお、出納整理期間を設けていない会計と出納整理期間を設けている会計との間で、出納整理期間に現金の受払い等があった場合は、現金の受払い等が終了したものとして調整しています。

(3) 表示単位未満の取扱い

千円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

(4) 売却可能資産の範囲の範囲及び内訳は、次のとおりです。

ア 範囲

売却予定とされている公共資産

イ 内訳

該当資産はありません。

以上